

## 実施のポイント

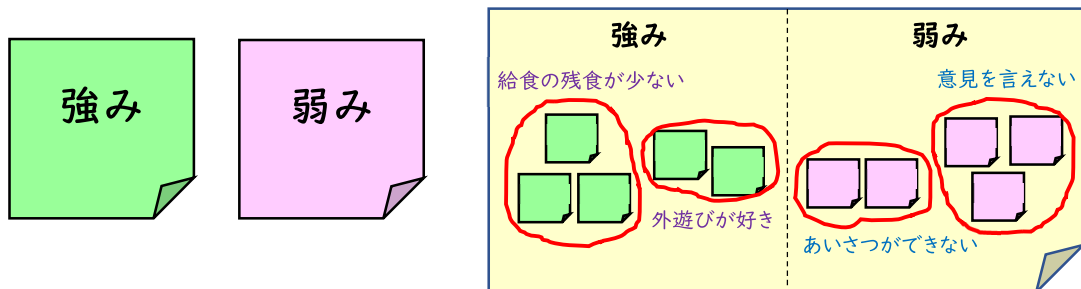
### ワーク1：講話【20分】「学校と地域の連携・協働の必要性について」

- ・講師紹介後、講演をお願いします（➡P9）。

### ワーク2：協議【30分】「私が考える、地域の子どもたちの“強み”と“弱み”」

- ① 正方形（8cm×8cm程度）の付せん紙2色、模造紙1枚、色ペン、黒ペン（グループ人数分）を各グループに配付する。
- ② 個人で緑色の付せん紙に地域の子どもたちの“強み”、ピンク色の付せん紙に“弱み”を1枚につき1つずつ記入する。

（模造紙の使い方の例）



- ③ 全員が書き終わったら、順番に模造紙に貼りながら発表していく。似ている意見は近くに貼る。
- ④ 意見のまとめりごとに○で囲み、簡単な見出しをつける。

※ここでの協議は、以下の例のような内容も考えられます。

- 「この地域の子をどんな子どもに育てたいか」
- 「地域の子どもたちに身につけさせたい力は何か」
- 「地域の子どもたちに、こんなことを伝えたい・残したい」
- …など

## 要点 和やかな雰囲気です協議を進めるポイント

### ○協議の進め方

参加者にたくさん話していただきたいときは…

- ・従来の会議のような口の字型の座席配置では発言しにくいので、アイランド型に配置するとよい。
- ・社会教育主事有資格教職員や地域連携教員がファシリテーターとなるとよい。
- ・はじめのあいさつが堅苦しくならないように気をつける。例えば、あいさつにエピソードを入れるだけで、参加者が発言しやすい雰囲気をつくることができる。

○ 最近ギターが趣味の○○です。皆さんの最近の“推し”は何ですか？

✗ 本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。

（エピソードテーマの例） ●最近嬉しかったこと ●子どもの頃の自分の話(夢)  
●最近読んだ本や雑誌で印象に残っていること ●私の“推し”は… など

### ○協議をふくらませるポイント ※アイスブレイクでお互いに話しやすい環境を整えておくことに加えて…

- ・他の人の意見を尊重し、否定をしない。
- ・傾聴（相手を見て、うなずいて、笑顔で聴く）
- ・他の意見を参考にして、どんどん発想をふくらませる。
- ・集まった人全員が発言できるようにする。
- ・発言はポジティブな意見となるように心がける。